

1996年6月26日

ディケンズ・フェロウシップ ニュースレター

梅雨空のもと、みなさまいかがお過ごしですか。先日行われた春季大会の報告をかねて、以下の通りご連絡いたします。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部の春季大会は、緑の豊かな名古屋大学シンポジオンを会場にして、1996年6月1日午後2時、定刻通りに開始された。参加者は約百名。

1. 開会の挨拶 (14:00~14:15)

小池滋支部長から開会の挨拶があり、とくに今回の会場設営にご協力くださった名古屋大学の松岡光治さんに感謝の意を述べられたあと、次のような連絡事項があった。

- (1) 本年度の大会は10月12日(土)午後2時から、東京女子大学善福寺キャンパスで開催されます。研究発表をなさる方は、ふるって支部長まで名乗り出てください。
- (2) 97年6月の春季大会についても、ご勤務校での開催が可能な方は、ぜひ支部長までお申出ください。
- (3) フェロウシップの会報を10月に発行します。本日の発表者はレジメを送ってください。会員からの投稿も歓迎します。また会員名簿の住所 勤務先などの変更などは、速やかに届け出てください。
- (4) 上記の原稿、投稿、住所録の訂正事項などは、8月10日(厳守)までに小池支部長宅、または青木理事宅までお送りください。

2. 研究発表(14:15~15:30)

研究発表は松岡光治氏(名古屋大学)の司会で、以下の二名の方が発表した。いずれも周到な研究の成果であり、今年出たばかりのジョン・サザランドの『ヒースクリフは殺人者か?』にも言及があるなど、聴衆の関心をおおいに集めた。その要旨は本年度の『ディケンズフェロウシップ会報』に掲載される。

- (1) 木原康紀(福井大学)
『『デイヴィッド・コパフィールド』における監獄的空間』
- (2) 佐々木徹(京都大学)
『“その次の口の夕方”? 『マーチン・チャズルウィット』の大団円における混乱』

3. 講演 (15:50~17:20)

大会第二部の講演は、西條隆雄氏(甲南大学)の司会により、“Dickens and Drinking”と題して、ポール・スノウドン氏(早稲田大学教授)のお話があった。1829年のLondon Encyclopediaの酒類に関する統計表を参照しながら、ディケンズの作品に出てくる酒の種類や飲酒の習慣について考察し、当時は再現された。作品の引用や、ご自身のケンブリッジ大学在学中の思い出を交えるなど、ヴィジュアルな講演であった。

大会後の懇親会は、大学構内にあるとは思えないほど閑静な「グリーン=サロン東山『レストラン花の木』」で開かれ、数十名が参加した。小池支部長の挨拶で乾杯し、ディケンズのレシピによる「パンチ」も供されていて、和やかな歓談のひとつときを持つことができた。

本大会の開催に多大なご協力をいただいた名古屋大学と松岡光治氏と関係各位に、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。